

英國の獨逸に對する恐怖は實に此の點に存するのであつて、著者は獨逸を以て世界市場の破壊者と叫び、海外貿易局祕書長ハドソンのドイツに對する威嚇的言辭を借りて結びとして居る。

要するに本書は稍側面的見解を示せる缺點なしとはいへ、決して政治的意圖を有する著作ではない。それは吾人の有する判断力を以て相殺すべきである。唯バルカン諸國に於ける民族構成に對して更に深い説明を望むものであるが、併し兎も角本書は比較的冷靜に吾人の知らんとするバルカンの近況を凡ゆる方面より觀察批判したる貴重なる文献と信じ、一讀を御推めする次第である。

尙各所に統計表、地圖の挿入せられて居る事は、吾人の理解を便ならしめて居る。(菊版、本文二〇三頁、圖表二四、地圖一〇葉、輸入價五四五拾錢)〔内藤玄匡〕

移民と環境

シヤピロ著

本書はアメリカ博物館長、ハワイ大學教授兼コロンビア大學講師、シヤピロの著。「移民と環境」特に「ハワイ日本人移民の體質的徵表とその子孫に及ぼせる環境の影響」の研究である。この研究はハワイ大學援助の下にロックフェラー基金に依つてなされたもの。第一次實地調査は一九三一年一月、ハワイ諸島で、第二次調査は翌三二年日本内地で行はれたものである。

移民と環境なる問題を扱ふに著者は人種學的見地よりなした。一般に人類學、人種學に於いて行はれてゐる如く、外見的徵表に

正確なる測定を興へ、その比較に依つて徵表的變化を論じてみてこれを一貫するものは統計的處理である。内地定住者と移民との間に體質的徵表的變化あること、又それらと移民子孫との間にも同じく變化を見ること、等、いづれも彼が第一次、第二次調査に於いて蒐集した貴重なる統計に基くものである。この方法の可否に就ては第二章その他に於て論述自らの崩壞を免るべく細心の注意を拂つてゐるのであつて、今更これに就いて云々する要はあるまい。

この研究より得た結果は日本内地定住者と、ハワイの日本人移民、或はその子孫との間に體質的徵表的差異のあることで例へば男子移民は内地定住者に比して體重、四肢の長さ、肩幅、胸幅、頭高、顔高、鼻長、鼻高、等に於いて著しい増加を示し、坐高、胸高、胸の厚さ、鼻凸角、鼻幅、等に於て減少を示すことである。この傾向は女子移民の場合にも移民子孫の場合にも妥當するところ、氣候、食物、その他の複雑多岐に互る人文的、自然的環境的變化がこの結果を齎したものであらう。

この様な移民と環境の人種學的の研究は既に三十年前、ボアス氏によつて試みられたことがある。(Changes in bodily form of descendants of immigrants, N. Y. 1912) これに於いて彼はアメリカ來住移民の子孫が環境的變化に依り體型及び頭型指數に變化を生じてゐることを述べたのである。こゝに始めてこの問題に曙光が興へられたのであつて、今のシヤピロ氏の研究は更にこれを一步進めたものと云へる。

一體人種學に於ては個々人の徴表は或は變化することもあらうが全體としてのその平均値は長時間にあつても不變なりとするが一般に認められるところ。ワイデンライヒ氏の定義に従ふも「人種とは共有物に依つて相關的に結合され、變化の一定の限界に於て一定の種徴表と一致し、この特殊な徴表は本質的な限界超出なしに生活條件、外界條件に依つて變化される人種群なり」としてゐる。かくの如く徴表の總變化の統計的均衡の安定性は無條件に信ぜらるゝところなるに、本研究に於てはこれと全く反對の結果を得た。近年人種學のこの臆説に對する不満が高まつて來たとは云へ、尙それに對する確固たる方法なく従つて充分なる力を持たなかつた。勿論この研究も方法論に於て危険性を有しないでもなく、確たる結論に到達した譯でもない。しかし著者の學問に對する不撓の努力と熱心とは從來の臆説に對し反省の機と示唆を與へたものであると云へる。實際吾人は如何なる學問に於ても著者も云ふごとく我々が自然の中に見てゐる現實性に對して試みをするに依つて從來からの信頼を再檢討する必要があるのではなからうか。

終りに本書の原名と目次を掲げて紹介の責をふさぐこととする。

H. L. Shapiro, with the field assistance of Frederick S. Hulse. Migration and Environment: A Study of the Physical Characteristics of the Japanese Immigrant to Hawaii and the Effects of Environment on Their Descendants.

目次

- 第一章 緒論
- 第二章 方法論及び統計の考察
- 第三章 日本人移民に於ける體質的淘汰の證左
- 第四章 ハワイ生れの體質的變化
- 第五章 全移民の出自縣別
- 第六章 年齢による變化
- 第七章 職業による變化
- 第八章 體質上の特徴
- 第九章 結論

(オックスフォード大學版、五九四頁、定價七・五ドル) (柴田孝夫)

考古學研究

濱田耕著作

故濱田博士の東亞考古學に關する諸論文は昭和五年に一度纏められて『東亞考古學研究』と題し公刊せられたが、それ以後昨年七月博士が他界せられる迄の東亞考古學の諸論攷と、別に歐米考古學に關するものを加へて一冊の成書となつたのが本書である。之はもと博士自身が書肆の懇請に依つて美術史關係の論文と併せて昭和十二年に計畫されたものであつたが、未だ實現されるに到らずして總長に就任、ついで他界された爲に、博士の依囑に従うて門下梅原博士が其の意を繼承、故博士の考古學に關する最後の成書として新たに博士十八歳の處女作や記念すべきその絶筆「古